

テーマ：木造住宅の省令準耐火構造の取り組み

従来の鉄骨プレハブやツーバイフォー住宅と比べて不利とされてきた木造住宅の火災保険が変わっている。新たな保険法の施行に伴って、今年1月から火災保険や火災保険に付随する地震保険の改定が行われている。火災保険料を決める構造級別判定の区分(保険料率構造区分)が簡素化され、木造住宅においても省令準耐火構造にすることで保険料を割安にできるようになっている。

1. 保険料率区分も性能基準で簡素化

火災保険料の料率は、構造級別判定区分と建築地域によって異なってくる。今回の改定で、A構造からD構造の4区分であった構造級別判定区分が、M構造、T構造、H構造の3区分に簡素化された。新しい区分は、建物の種類(戸建住宅やマンション、一般建築物)と、耐火性能によって判定され、戸建住宅では、構造に関係なく、耐火性能の高い「T構造」と耐火性能の低い「H構造」に区分される。木造住宅でも、耐火建築物、準耐火建築物、省令準耐火構造のいずれかであれば、耐火性の高い「T構造」となり、火災保険料は、H構造に比べて、概ね4割引となっている。(図1)(表1)

従来の構造判定は、柱や外壁や屋根材の違いによって区分していたため、木造住宅であってもALC外壁など耐火性の高い外壁材を使った場合、ワンランク高いB構造に区分され保険料率が安くなっていた。しかし、今回の改定では耐火性の高い外壁材を使っても、耐火、準耐火建築物に適合していない場合には、T構造ではなくH構造になり、以前より火災保険料が高くなることもあるので要注意。

■割引制度の簡素化、特約等の整理

簡素化に伴って、従来あった火災保険の割引など廃止にするケースが多くなっている。省令準耐火割引や耐火性能割引、ツーバイフォー工法割引は廃止されている。また、火災の危険が少ないオール電化住宅割引、高機能なコンロの割引も廃止している損保会社が多くなっている。

図1. 新しい構造区分

保険料	構造区分	該当する建物の種類
 安い	M構造 耐火性：高	・下記の「共同住宅」 ・コンクリート造建物、コンクリートブロック造建物、レンガ造建物、石造建物 ・耐火建築物の「共同住宅」
	T構造	・下記いずれかに該当する建物 ・コンクリート造建物、コンクリートブロック造建物、レンガ造建物、石造建物、鉄骨造建物(外壁は問わない) ・耐火建築物 ・準耐火建築物 ・ 省令準耐火建築物
	H構造 耐火性：低	・M構造およびT構造に該当しない建物 ・木造建物、土蔵造建物、その他

M: マンション、T: 耐火、H: 非耐火

表1. 火災保険の事例

■火災保険料の事例	
構造級別	火災保険料(20年一括)
T構造(耐火構造)	202,760円
H構造(非耐火構造)	385,480円

※セゾン保険
 限度額 2000万円
 ※地震保険 類焼損害含む

2. 省令準耐火構造の取り組み

木造住宅で「T構造」に対応するには、建築基準法で定められる耐火建築物、準耐火建築物にすればよいのだが技術的なハードルは高い。現実的な方法として、省令準耐火構造にすることになる。省令準耐火構造は、住宅金融支援機構が定める基準に適合する耐火性能に優れた住宅を指す。以前からツーバイフォー工法に適用されていたが、2009年1月に木造軸組工法住宅でも仕様が定められた。

木造軸組でも対応できるようになってからは、木造住宅産業協議会などの業界団体でも技術研修会などを開催して省令準耐火構造に積極的に取り組んでいる。また、ビルダーの中には、省令準耐火構造を標準仕様として取り組む会社も見られる。

省令準耐火構造の住宅は、住宅支援機構が定める基準であるが、民間住宅ローンを利用する住宅でも適用される。

■地震保険も割安

これまでの省令準耐火構造では、地震保険までは安くなっていなかったが、今回の改定では、省令準耐火構造も含む「T構造」は全て地震保険の「イ構造」に該当するので、保険料は割安になる。

■地震保険の構造区分

表2

構図区分	基準	火災保険の構造級別	保険料	事例 1000万円当りの 保険料(大阪府)
イ構造	耐火建築物 準耐火建築物 省令準耐火構造	M構造 T構造	安い	10,500円
ロ構造	イ構造以外の建築物	H構造	高い	18,800円

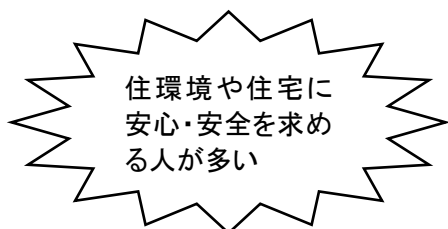
※事例の保険期間:1年

■特定建材メーカーとの提携した火災保険

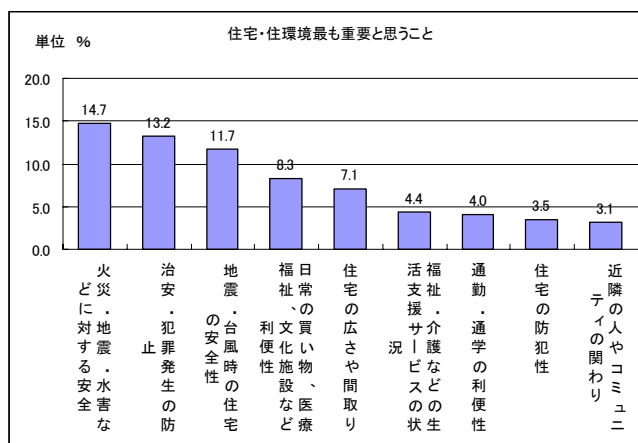
また、旭化成建材の「パワーボード」や大建工業の「ダイライト」、アップルゲートジャパンの「セルロースファイバー断熱の家」など、建材メーカーが損保会社と提携して、メーカーが指定する仕様を満たすことで割安な火災保険料を導入する損保会社も見られる。

住宅を新築した際に必要になる火災保険は、30万円から100万円(20年から30年の一括支払い)とまとまった費用になり資金計画の負担になることが多い。鉄骨プレハブメーカーやツーバイフォー住宅では、保険料が割安であることをセールスポイントにしている会社も少なくない。

なお、省令準耐火構造は、単に保険料を割安にするだけでなく、住まい手の安心と安全を確保するために性能の高い住宅を提供する取り組みであるとの認識が当然必要である。



出典
住生活総合調査 2008年
国土交通省



3. 木造軸組工法を用いた住宅の省令準耐火構造の仕様概要

この仕様は、2009年1月に住宅金融支援機構によって制定されたものである。詳細はホームページで確認できます。<http://www.flat35.com/files/100039864.pdf>

屋根	<ul style="list-style-type: none"> ●不燃材料で葺く ●屋外に接する部分を準不燃材料で造って準耐火構造 ●屋外に面する部分を準不燃材料で造って耐火構造に、屋外面に 50 ミリ以下のプラスチック系断熱材と防水材を張る。
柱	●露出しているものは、外壁、界壁以外の部分の内壁と同じ措置
梁	●屋外に露出している梁は、外壁と同じ措置
外壁・軒裏	●防火構造とする
内壁(界壁以外の部分)	<p><外壁の室内に面する部分></p> <ul style="list-style-type: none"> ●厚さ 12 ミリ以上の石膏ボード張り ●厚さ 9.5 ミリ以上の石膏ボード 2 枚張り <p><それ以外の部分></p> <ul style="list-style-type: none"> ●厚さ 12 ミリ以上の石膏ボード張り ●厚さ 9 ミリ以上の石膏ボード 2 枚張り ●厚さ 7 ミリ以上の石膏ボード張りの上に、厚さ 8 ミリ以上のプaster塗り ●防火構造
界壁	<ul style="list-style-type: none"> ●厚さを 100 ミリ以上にする ●内部に厚さ 25 ミリ以上のグラスウール、またはロックウールを入れる ●界壁の両面は、厚さ 12 ミリ以上の石膏ボードを 2 枚張り
天井(界床以外の部分)	<p><2 階(上階に床がない部分)の天井></p> <ul style="list-style-type: none"> ●厚さ 12 ミリ以上の石膏ボード張り ●厚さ 9 ミリ以上の石膏ボード 2 枚張り ●厚さ 9 ミリ以上の石膏ボード張りの上に、厚さ 9 ミリ以上のロックウール化粧吸音板張り <p><1 階(上階に床がある部分)の天井></p> <ul style="list-style-type: none"> ●厚さ 9 ミリ以上の石膏ボード 2 枚張り ●厚さ 12 ミリ以上の強化石膏ボード+50 ミリ以上のグラスウール、またはロックウール(強化石膏ボードの目地を野縁と一致)
天井張り	<ul style="list-style-type: none"> ●防火被覆材は、根太、野縁などに留めつける ●防火被覆材は、天井の外周部を除き、1 枚目と 2 枚目の目地が一致しないように配置する。
下がり天井	●天井と同じ
開口部	●指定なし
界床	●1 時間準耐火構造の床にする
壁張り	<ul style="list-style-type: none"> ●防火被覆材は、柱・間柱・土台・梁・胴差などに留めつける ●防火被覆材の目地部分、取り合い部分の裏面にあて木を設ける ●防火被覆材のあて木の断面寸法は、45×105 ミリ以上 ●間柱の断面寸法は、30×105 ミリ以上 ●防火被覆材は、壁の外周部を除き、1 枚目と 2 枚目の目地が一致しないように配置する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●床、天井と壁の取り合い部分、壁と壁との取り合い部分、天井内部における間仕切り材と横架材の間にはファイアーストップを設ける。 ・厚さ 30 ミリ以上の木材 ・厚さ 50 ミリ以上のグラスウール、またはロックウール ・厚さ 12 ミリ以上の石膏ボード

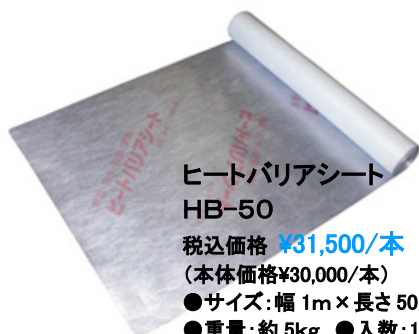
キタケイの提供するプライベートブランド
 環境・ぬくもり・素材をテーマとした各種住宅資材 “ スプロウトユニバーサル ”
 企画・製造から販売までトータルにプロデュースし、心からご満足いただける住まいづくりをバックアップします



www. sprout-univ. com

ヒートバリアシート

アルミ蒸着透湿・防水・遮熱シート



ヒートバリアシート
 HB-50

税込価格 ¥31,500/本

(本体価格¥30,000/本)

●サイズ:幅 1m×長さ 50m巻

●重量:約 5kg ●入数:1 本梱包

●ネーム入れもできます(50 本単位/版代別途)

おすすめPOINT

優れた遮熱性

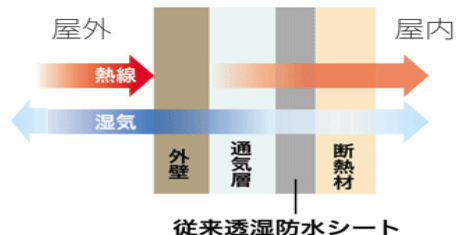
透湿・防水シートにアルミを蒸着させ、外壁から屋内へ伝わる熱エネルギーを遮熱し、効果的に反射します。

優れた透湿性

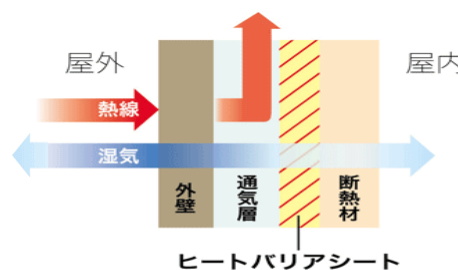
空気を通す特殊フィルムを使用し、湿気を外に逃がし、快適な住空間を実現します。

優れた防水性

外からの水の浸入を防ぎ、住宅寿命をアップします。

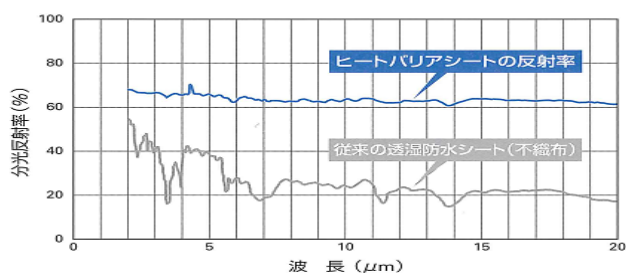


外壁から発生した輻射熱が室内側に伝わります。

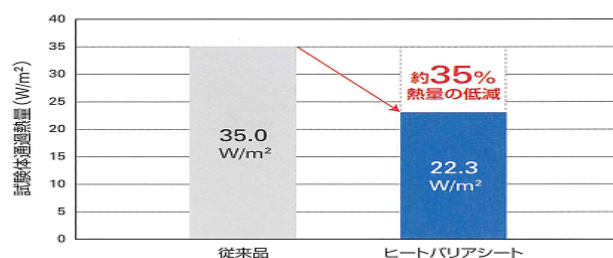


外壁からの輻射熱を「ヒートバリアシート」が反射して室内への侵入を低減します。

遮熱性



遮熱効果(通過熱量差)



室内進入熱量比 1:0.64 = 約35%の熱量を低減

透湿防水性

(他社との比較データ)

	ヒートバリアシート	A社	B社	C社	JIS規格	
					一般家屋向け(A)	冷寒地向け(B)
透湿抵抗 (m ² ・s・Pa μg)	0.10	0.12	0.12	0.12	0.19以下	0.13以下
防水性 (KPa)	40	17	47	34	10以上	

※(財)日本化学繊維検査協会の測定結果に基づくものです